早めの施肥で牧草の収量を確保しましょう

今年度は弟子屈町、標茶町で平年より積雪が多く、土壌凍結が浅い地区が多くなっています。過去の積雪・土壌凍結のデータと比較すると、平成24年度の冬と似た傾向を示しています（図１）。

平成24年度は凍結深が浅く、抜けが平年より早まりました。

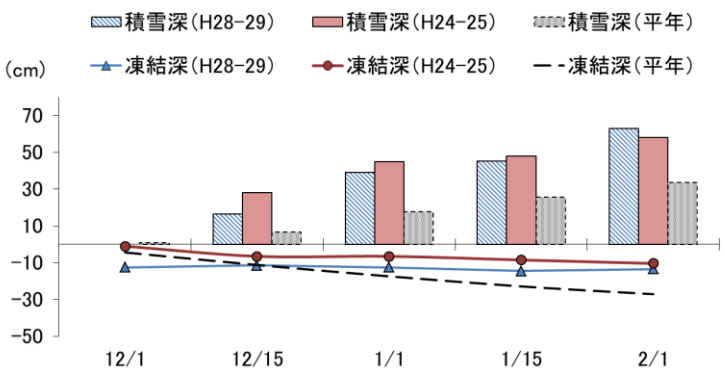

図1 標茶町虹別の積雪，凍結の推移(普及センター調べ)

その結果、平成25年の牧草の萌芽期は弟子屈町、標茶町ともに早まりました（表１）。

今年も同様の傾向が考えられます。ほ場の排水性などによって、ほ場に入れるタイミングにはばらつきがあるかもしれませんが、春作業の準備は万全にしましょう。

表１ 標茶町の萌芽期（普及センター調べ）

	弟子屈町	標茶町
平成 25 年	4月 19 日	4月 20 日
平年	4月 25 日	4月 23 日

□採草地への施肥時期と収量の関係

早春の採草地への施肥は、早い方がチモシーの１番草収量が増加します。これはチモシーの特性によるもので、春の早い時期に窒素を吸収すると、有穂茎（穂が出る茎）の数が多くなるからです。有穂茎は栄養茎（穂が出ない茎）より重いので収量が増加します。

施肥時期が遅くなってもチモシーは窒素を吸収しますが、収量への影響は小さくなります（図２）。

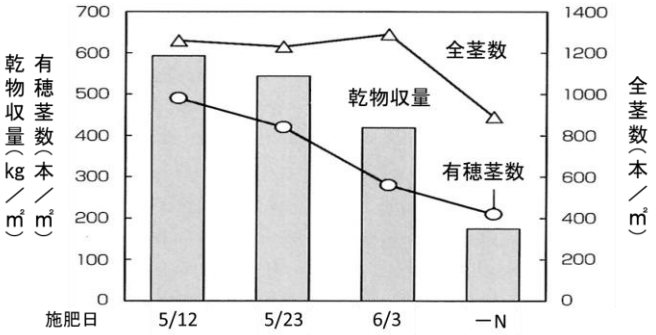

図2 早春の窒素施肥時期とチモシーの1番草収量，有穂茎数，全茎数
（松中・小関，1985から作図，根釧農業試験場）
N施肥量：8kg/10a，ーN:無窒素区

□当地域における施肥時期

チモシーの有穂茎を増やす施肥時期は、萌芽期から幼穂形成期までの間です。萌芽期は、ほ場全体の４～５割が萌芽し、色づくタイミングです。

当地域では例年、４月下旬が萌芽期となります（表１）。萌芽期が早まる可能性も考えて、施肥作業の準備をしておきましょう。

□早めの施肥作業のために

施肥作業は、草地がある程度乾き、トラクターで草地を痛めない時期になってから行いましょう。

「草地にタイヤ跡がつかない時期には施肥できない」という話が聞かれます。施肥効果を上げるため、ＧＰＳガイダンスシステムを導入することも１つの手段です。

無料でお試し利用できるアプリもあり、基本ソフト（ＯＳ）がアンドロイドのスマートフォン、タブレット端末でダウンロードできます。詳しくは普及センターまでお問い合わせください。

平成２９年２月作成　釧路農業改良普及センター